

2020年度 明治学院大学 FD活動について（報告）

■FDとは

FD（ファカルティ・デベロップメント）は、

「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する取り組み」
のことです。

これは、大学設置基準第25条の3に規定され、教学マネジメント指針（2019 中教審）
においても上記を用いております。

本学においてはFD・教員評価を、

「大学の教育理念および各学部・学科・教養教育センター・教職課程、各研究科・専攻
の教育目標に則した授業内容や教育方法を評価・改善し、教育の質の向上を図る組織的な
取り組みの総称」（FD・教員評価検討委員会規程 第2条）

としております。

■2020年度のFD活動

1. FD・教員評価検討委員会開催

開催	議題
第1回 4月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度春学期授業評価の中止について ・2020年度FD・教員評価検討委員会 実施日程変更について
第2回 10月6日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度授業評価アンケートweb化について ・2021年度FD・教員評価検討委員会 実施日程(案)について
第3回 1月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度授業評価アンケートについて ・2021年度FD講演会について ・本学webサイト「オンライン授業サポート(教員向け)」コンテンツについて
第4回 3月9日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度授業評価アンケートについて ・授業時間外での授業評価実施について

2. 「学生による授業評価」の実施

学期	実施日	実施状況
春学期	7月9日(木) ～7月22日(水)	実施 : 6028人 (50.3%)
秋学期	12月17日(木) ～1月20日(水)	対象授業 : 学部 2,081 大学院 81 実施 : 学部 2,068 (99.3%) 大学院 68 (84.0%)

3. FD関連学外研修会等への参加

①	大学コンソーシアム京都主催「第26回FDフォーラム」 テーマ：あらためて大学とは何か ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～ 日程：2月20・21・27・28日 参加者：教員3名 ※新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催
②	京都大学高等教育研究開発推進センター主催「第26回大学教育研究フォーラム」 テーマ：「大学教育におけるニューノーマルを展望する」 日程：3月17日～18日 参加者：職員6名、村田玲音学長 ※新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催

4. 学内FD講演会・説明会の開催

①	第1回FD講演会：オンデマンド配信 「なせ今「教学マネジメント」に取り組むのか」 ～「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」と「教学マネジメント指針」を読み解く～ 講師：学びと成長しくみデザイン研究所 桑木氏
---	---

②	<p>第2回FD講演会：オンデマンド配信 カリキュラムマネジメント【設計編】 ～設計意図に沿ってカリキュラムを運営する方法～ 講師：学びと成長しくみデザイン研究所 桑木氏</p>
③	<p>第3回FD講演会：オンデマンド配信 カリキュラムマネジメント【アセスメント編】 ～カリキュラムの成果を確認し運用改善に繋げる方法～ 講師：学びと成長しくみデザイン研究所 桑木氏</p>

5. 学部・学科のFD活動

文学部
<p>2020年度文学部FD活動報告</p> <p>学科別に2020年度のFD諸活動を報告する。FD・教員評価検討委員会主催のFD講演会への個々の教員の参加については、記述を省略する。</p> <p>英文学科</p> <p>学科FD研修会を6月3日、9月9日、10月7日、2月2日に実施した。いずれも他の校務のある場合を除いて、ほぼ全教員が参加した。</p> <p>以下活動内容の詳細である。</p> <p>6月3日：「2019年度および2020年度入学生の英語力の実態と今後の指導について」2019年度・2020年度入学生の英語力の実態等について説明が行われた。学科としての英語力の到達目標やカリキュラム評価の方法について検討していく必要性について確認された。</p> <p>9月9日：「2020年度GTEC Academic 受験結果の報告—2019/2020年度の結果データを組み合わせた分析—」入学生の英語力の実態について、プレイスメントテストの実施母体であるベネッセ担当者より結果報告を受け、卒業までの4年間の指導に方針について意見交換を行った。</p> <p>10月7日：「2019年度学習成果調査の結果と今後の指導について」2020年3月に実施された学習成果調査結果の報告に基づき、今後の取り組み方針について意見交換を行った。</p> <p>2月2日：「オンライン授業と対面授業による教育の質向上に向けた工夫と課題」早稲田大学人間情報科学科教授・総合教育センター副所長の森田裕介先生に、双方向型のオンラインセミナーを行っていただいた。</p> <p>フランス文学科</p> <p>学科FD検討会を6月3日、7月1日、2月7日に実施した。いずれも全教員が参加した。</p> <p>以下活動内容の詳細である。</p> <p>6月3日：時間：16:30～17:50 /会場：オンライン開催</p> <p>学位授与方針で示した知識、技能、姿勢等の学習成果——とりわけ学位授与方針の項目1「フランス語の文法や発音の基礎を習得し、読み、書き、聞き、話すための実践的な運用能力を身につけている」——を学生が段階的に修得しているかどうかを把握し、かつ適切な学習成果が得られているかを自己点検するため、</p>

2019 年度から「フランス文学科 1 年次必修「フランス語1」・「フランス語 2」学年末クラス分け試験」を実施することにした。

本検討会では、その試験結果にもとづく資料をもとに、学生の学習成果を分析し、これからの教授法を議論した。

7 月 1 日:時間:14:50~15:20 /会場:オンライン開催

学生の受け入れにかんする自己点検をするため、2019 年度から実施している「フランス文学科 1 年次必修「フランス語1」・「フランス語 2」学年末クラス分け試験」の結果を、学生の受け入れという観点から分析した。

本検討会では、上記試験結果にもとづく資料をもとに、学生の入学後の学習成果を分析し、学生の受け入れの向上に向けたとりくみを議論した。

2 月 7 日:時間:19:30~20:20 /会場:フランス文学科共同研究室まえ会議室

議題:フランス文学科のカリキュラムについて

今年度、最後の回となる本検討会では、上記2回(6/3ならびに7/1)の検討会では時間の関係上、正面から議論することのできなかつた「大学4年間をつづいたカリキュラム」をいかに改善するかというテーマに絞って議論を行った。

芸術学科

FD 活動を4月8日、5月13日、6月3日、7月1日、8月5日、12月3日、1月13日、2月18日に実施した。いずれもほぼ全教員が参加した。

以下活動内容である。

4 月 8 日:オンライン授業について manaba の使用法について、初めて使用する者に対してのセミナー

5 月 13 日:オンライン授業について、zoom と teams の使用法についてのガイダンス、および実践的に試行してみる

6 月 3 日:オンライン授業について、実際の配信の成果について。オンライン授業を開始して約一ヵ月経ち、皆でその成果を検証、確認

7 月 1 日:新入生アンケートについて、新入生のためにアンケートを実施するために、どういう質問項目が必要か。項目を作成するとともに、その集計方法も探る

8 月 5 日:新入生アンケートについて、7 月に実施したアンケートを基に分析し、どういう形で新入生に返していくか。ここで明らかになったオンライン環境の学びの困難さを教員が共有し、それを文面にする。

12 月 3 日:卒論提出について、今年度から卒論データをどうするかで、manaba に新たに受け入れ先を設ける。

1 月 13 日:卒論提出の成果、卒論データを今後どう活用するか。公開の可能性も探る。

2 月 18 日:今後のオンライン授業、対面授業が主流になった後でも、オンライン授業は維持していくことを検討する。

教職課程

FD 活動を4月2日、5月6日、6月3日、7月1日、7月29日、10月7日、11月11日、12月2日、1月13日、2月8日に実施した。いずれも全教員が参加した。

以下活動内容の詳細である。

4 月 2 日:昨年度の FD 活動の振り返り、■開催場所:教職課程多目的ルーム ■主催:教職課程主任■内容:昨年度の FD 報告と今年度の注意点。2019 年度授業評価報告書「授業評価講評」の報告と検討。

5月6日:遠隔授業の情報共有等、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:遠隔授業の情報共有。教職課程の3ポリシーの検討。

6月3日:遠隔授業の授業改善等、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:教職課程が実施した遠隔授業のアンケート結果の報告と授業改善。来年度の時間割の検討。

7月1日:秋学期の授業方法の検討等、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:秋学期の授業方法の検討。来年度の時間割の検討。「模擬授業検討会」の実実施計画の検討。

7月29日:来年度の時間割の検討等、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:秋学期の授業方法の検討。来年度の時間割の検討。遠隔授業の教育方法改善(教職実践演習特別プログラム、介護等体験レポート等)。Zoomによる教員採用試験対策の実実施計画の検討。

10月7日:来年度の授業方法の検討等、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:来年度の授業方法の検討(各授業の対面とオンラインの振り分け等)。コロナ禍における教育実習の進め方の検討(教育実習中止者の報告と対応等)。コロナ禍における教職実践演習の進め方の検討(カルテの運用の仕方、特別プログラムの進め方等)。

11月11日:教育実習代替科目の検討、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:教育実習の代替科目(「教育学研究A・B」)の検討。文科省の通知の検討、履修者の確認、授業内容・担当者の検討。

12月2日:介護等体験の進め方の検討、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:コロナ禍における介護等体験の進め方の検討。介護等体験レポートの提出状況、評価の検討。

1月13日:教育実習代替科目の検討等、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:教育実習の代替科目の検討:教育学研究(今泉先生担当)、教育学研究(世良先生担当)、教育学研究A・Bの状況の確認、評価方法の検討。教職実践演習の進め方の検討:カルテの提出状況の確認、評価の検討、運用の仕方の検討、特別プログラムの進め方の検討。

2月8日:オンライン授業の実践事例の検討等、■開催場所:オンライン ■主催:教職課程主任■内容:オンライン授業の実践事例の検討(実践事例の紹介、オンライン授業のメリット・デメリットの検討等)。教育実習の検討(代替科目の成績評価、教育実習の成績評価、来年度の教育実習のスケジュール及びクラス分け等)。教職実践演習の検討(成績評価、来年度の教職実践演習のスケジュール及びクラス分け、来年度のカルテの運用の検討等)。介護等体験の検討(レポートの提出状況の確認)。

経済学部

2020年度 経済学部 FD活動報告

経済学部では、今年度も経済学科、経営学科、国際経営学科でそれぞれのカリキュラムの特性を考慮して、学科主任が中心となり、学科ごとに独自のFD活動を行った。

<経済学科>

活動日:5月13日、7月1日、9月20日、11月30日、2月15日

経済学科では、まず初年次教育や2年次教育に関して、今後も中長期的に内容を充実させていくために、カリキュラム改革の必要性や担当者の中長期的な計画について情報共有やディスカッションを行った。また、大学主催のオンデマンド型のFD講演会を通じてFD活動を進めた。さらに、コロナ禍が当面収束しないこと、コロナ禍が収束した後でも活用の可能性を探るため、オンライン授業における課題について情報共有とディスカッションを行った。

活動内容:

5/13 初年次教育・APに関する検討

学科会議において、横浜キャンパスで行われる初年次教育に関し、科目と担当者の中期的な計画について検討した。また、現行の科目(特に「現代社会と経済」2科目)を当面維持することとした。また、同会議内で学科のアドミッション・ポリシーについて協議した。

7/1 2年次教育に関する検討

学科会議において、一部の教員に2年次科目の負担が集中していること、また重要な科目の一部を非常勤講師に依頼している現状を改善する件について協議した。対策としては、負担が特に大きい科目については2クラス開講して負担を軽減する、2年次科目はなるべく専任教員を当てることとした。

9/20 第1回FD講演会 “FD・教員評価検討委員会主催の第1回FD講演会(オンデマンド実施)

なぜ今、「教学マネジメント」に取り組むのか ～ 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」と「教学マネジメント指針」を読み解く ～

講師:学びと成長しくみデザイン研究所 桑木氏”

11/30 第2回FD講演会 “FD・教員評価検討委員会主催の第2回FD講演会(オンデマンド実施)

カリキュラムマネジメント【設計編】設計意図に沿ってカリキュラムを運営する方法

講師:学びと成長しくみデザイン研究所 桑木氏”

2/15 オンライン授業に関するディスカッション オンライン授業に関するディスカッションを実施した。今回のテーマは、大人数授業で学生同士のディスカッションを促進するためにどのような工夫をしたかについて、各教員が自らの担当する授業における事例を紹介しあった。また、特にオンデマンド方式において授業動画を見ない学生、後回しにする学生がいるという問題が共有された。

<経営学科>

経営学科が注力している「少人数教育の充実」の他に、「オンライン授業の質の向上」、「全学共通科目と学科専門科目の連携」、「アントレプレナー教育の導入」について学科FD活動を行った。

・6/10 コロナ禍におけるゼミ教育の充実について

本学科が近年特に注力している「少人数教育」を充実させるために、ゼミの在り方について改めて議論した。コロナ禍においても、平年同様に積極的に「ゼミ説明会」や「公開ゼミ」を実施し、学生のゼミへの関心や学習意欲を喚起するにはどのような方法を取り得るか、具体的に話し合った。

・11/11 リモート授業の質の向上について

新型コロナウイルス感染の先行きが未だ不透明な中、大学は学生への授業の“質”を維持すべく、ITを駆使し、多様な授業実施形態を採用することが求められている。本学では今年度秋学期から、対面授業、Zoomによるライブ授業、「manaba」を活用したオンデマンド型授業を実施している。しかし、提供している授業の質は、科目および担当教員によってバラツキが大きい。リモート授業の実施内容に関し、保証人からクレームも寄せられている。今後、リモート授業の質を確保するために、どのようなルール作りが必要か。実践事例を参考に

しながら、経営学科として具体的なルール作りについて議論した。

・1/13 全学共通科目と学科専門科目の連携について

在学中の4年間の中で、学生への教育効果を最大限発揮するために、教養教育センター開講の教養科目と各学科開講の専門科目がどのように連携すべきか、学科としてどのような教養科目を求めるかについて議論した。アカデミック・リテラシー(「論文の書き方」等)の修得を目的とした教養科目や、「経営史」履修にあたり、近世・現代史(政治や社会情勢)を知識として備えていることが望ましいため、この時代に特化した歴史の教養科目を求める声があった。今後も教セと連携することで、2年次以降の知識習得がより一層深まると考えられる。

・2/15 アントレプレナーシップ教育の導入について

ポストコロナの社会変革が求められる中、急激な社会環境の変化を受容し新たな価値を生み出していく精神(アントレプレナーシップ)を備えた人材の育成がますます重要となってきた。文部科学省では、国内外の各大学や関連組織へのアンケートやヒアリング等を通じて、我が国におけるアントレプレナーシップ教育の現状を把握し、今後の政策・立案の基礎となる方向性を整理することを目的とした調査・分析を実施している。しかし、本学経済学部では、アントレプレナーシップ教育を強く意識し、体系的なカリキュラムの一環として継続的に開講している科目は見当たらない。Eg.「経営学特講(世界市民としての視点:人道、人権、多様な価値の受容)」「(赤十字パートナーシップ講座)」、「経営学特講(経営者の視点:社会貢献とビジネスの両立)」「(城南信用金庫連携講座)」、「経営学特講(イノベーションとクリエイティビティ)」「(非常勤)。今後、アントレプレナーシップ教育を充実させるために、どのようなカリキュラム作りが必要か。経営学科としてどのような科目を提供することができるか。より一層の教育効果を得るために、他学部学科とどのように連携することができるかについて、他大学の事例を参考に議論した。

<国際経営学科>

活動日:6月27日 8月19日 10月3日 11月7日 12月5日 2月15日 3月15日

国際経営学科は、相互授業見学会やオンライン授業に関する意見交換会を実施し、授業改善のための情報共有と議論を進めた。大学主催のオンデマンド型のFD講演会を通じてFD活動を進めた。コロナ禍などによりカリキュラム留学が中止ならびに延期となる場合の方針や具体的措置について検討し、今後のカリキュラム改善についての議論を進めた。

活動内容:

5/11相互授業見学。外国語教育研究、Trade & Industry分野の計3名の教員がPSA1でのオムニバス講義において1時間ずつ講義した。

8/19 本学科の特徴的なカリキュラム全員留学が2021年度実施できない場合を想定し、オンライン留学と学科カリキュラムの在り方に関する方針について議論し、効果的に機能させるための具体的運用方策について考えた。

10/3 相互授業見学。Trade & Industry, Management & Strategy分野の計4名の教員がPSA2でのオムニバス講義において1時間ずつ講義した。

11/7 相互授業見学。Trade & Industry, Management & Strategy, Accounting & Finance分野の計3名の教員

がPSA2でのオムニバス講義において1時間ずつ講義した。

12/5相互授業見学。Management & Strategy, Accounting & Finance分野の計3名の教員がPSA2でのオムニバス講義において1時間ずつ講義した。

2/15 オンライン授業の取り組み例、対面授業と遠隔授業の同時併用方法、オンライン授業全般に関する意見や感想などを教員間で情報共有した。

3/15 カリキュラム留学の可否判断と代替措置について検討をおこない、効果的に機能させるための具体的な運用方策について考えた。今後のカリキュラム改善についての議論を進めた。

大学主催のオンデマンド型のFD講演会(計3回)テーマ:「カリキュラム・マネジメント確立に向けたワークショップ・講演会」■講師:桑木康宏氏(株式会社学びと成長しくみデザイン研究所 代表取締役)

社会学部

社会学部の2020年度FDの実施について報告する。

1, 学部としての取り組み

20年度については、突然の遠隔授業導入に際し、学習管理システムmanabaの利用法及び授業方法について、19年度3月から20年度春学期にかけて、両学科内での講習会や情報交換会等を中心に行った。また、それらの学習内容について、非常勤講師とも共有できる場の設定等を両学科で行ってきた。(詳細は下記)

その他学部全体の活動としては、21年1月13日教授会終了後にハラスメントチェックシートを用いての意見交換会を行った。また、21年2月10日教授会内において、入学前教育プログラムについて意見交換を行った。従来のライティング力強化の内容から、高等学校在学時の学力維持を目的としたプログラムへの内容見直しに向け、参考資料等を収集することが確認された。

20年12月に配布されたピアレビュー報告書については、学部用teamsファイルにアップし教員間で共有し、自己点検委員2名が詳細をチェックしたうえで、21年3月24日に行った学部研修会において、改善点等の検討を行った。その後、改善指示書に記された学部教員の昇任基準の明確化等については、3月24日研修会において、学部長を中心としてワーキンググループを編成し、作成に取り組むことが確認されている。

2. 学科等のFD・学習会

(1) 社会学科

① 遠隔授業に関する学習会及び情報交換会

活動日;7/28 3/20 3/27

内容;非常勤講師に対する情報提供と学習会

② 初年次教育を中心としたカリキュラム改定の意見交換と準備作業

活動日;7/29 3/10

内容;アカデミックリテラシー、基礎演習、コース演習等についての授業内容及びテキストの見直しについて、具体的な作業工程を確認した。

③ FD講演会への参加

活動日;9/20 11/30

内容;講師 学びと成長のしくみデザイン研究所 桑木氏による「なぜ今教学マネジメントに取り組む

のか」に参加(9/20) 講師 同講師による「カリキュラムマネジメント【設計編】」に参加(11/30)

(2) 社会福祉学科

① 遠隔授業に関する学習会及び情報交換会

活動日;5/28 6/5 6/8 7/6 3/12 3/13

内容;いずれも、非常勤講師を交え、各自の取り組み、問題点等を出し合い意見交換を行った

② 学科の将来構想に関する意見交換

活動日;9/16 2/22

内容;学科の強み、課題、今後の取り組みについて検討を行った。

③ FD 講演会への参加

活動日;9/20 11/30

内容;講師 学びと成長のしくみデザイン研究所 桑木氏による「なぜ今教学マネジメントに取り組むのか」に参加(9/20) 講師 同講師による「カリキュラムマネジメント【設計編】」に参加(11/30)

法学部

1. 授業公開

例年、法学部では春学期と秋学期に教員間で授業公開を行ってきたが、今年度(2020年度)は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、両学期とも授業公開は中止した。

2. 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表

2013年度から、e-Learning 上または学部オリジナルHP上で、定期試験の問題と解説または講評を公表している。2020年度の春学期成績評価および定期試験については、8月21日(金)から9月10日(木)までの3週間、公開した(既定の期間以上掲載するかは各教員の判断に委ねている。秋学期も同様)。秋学期定期試験については、3月3日(水)から3月23日(火)までの3週間、公開した。今年度は、オンライン授業が主流であったため、どのような内容・要素でいかなる基準により、各科目の成績評価を行ったかを中心に説明するとともに、一部定期試験実施科目については、その解説・講評の公表を行った。なお、定期試験問題・課題レポート等の公開は任意としている。掲載場所は、e-Learning 上の「講義内容」または「教材」のどちらかであり、e-Learning を使用しない教員のために学部HP上に掲載場所を設けている。

3. 法学部4学科のFD活動報告

◇法律学科の2020年度のFD会議・活動等

- (1) オンライン授業講習会:今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、春学期の授業はすべてオンライン・リモート授業となったので、オンラインによるFD検討会を4月13日(月)・14日(火)に開催し、「オンライン授業の進め方」のテーマのもと、学部スタッフのほぼ全員に、講習会を開催した。
- (2) 初年次教育検討会:新型コロナウイルス感染症拡大により中止。その代わりに、学科のスタッフに、入学前教育講評会資料を配付して、昨年度の入学前教育実施について、各自振り返ってもらった。
- (3) 法律学科会議におけるFD検討会:法律学科会議にあわせてFD検討会を開催し、オンライン授業について意見交換・次年度の授業方針(対面・オンライン併用等)・次年度カリキュラム・授業評価アンケートのやり方・フレッシュャーズ研修のあり方などを議論・検討した。

- (4) 法曹コース運営委員会: 春学期は、5月18日、6月22日、7月22日、8月24日、10月14日、11月11日、3月2日と法曹コースの学生指導・次年度第2期生募集・連携先他大学法科大学院との連携協議等に関し、法曹コースの運営全般について検討する機会を設けた。毎回の教授会において、法曹コース運営委員会での決定事項等を報告し、学部スタッフからの意見聴取や全体での意見交換を行った。
- (5) FD講演会: 学科としてFD講演会への参加を推奨したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学科の教員が参加できなかった、またはしなかった。
- (6) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表: 上記2参照(全学科共通)。

◇消費情報環境法学科の2019年度のFD会議・活動等

- (1) 4月9日に学科FD会議を開催し、学科カリキュラムや授業評価実施対象科目の条件等について検討を行った。今年度は、特に、新型コロナウイルス感染症拡大により、春学期の授業の進め方(オンライン授業)や教科書の入手方法等について検討を行った。
- (2) オンライン授業講習会: 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、春学期の授業はすべてオンライン・リモート授業となったので、オンラインによるFD検討会を4月13日(月)・14日(火)に開催し、「オンライン授業の進め方」のテーマのもと、学部スタッフのほぼ全員に、講習会を開催した。
- (3) 初年次教育検討会: 新型コロナウイルス感染症拡大により中止。その代わりに、学科のスタッフに、入学前教育講評会資料を配付して、昨年度の入学前教育実施について、各自振り返ってもらった。
- (4) FD講演会: 学科としてFD講演会への参加を推奨したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学科の教員が参加できなかった、またはしなかった。
- (5) 10月14日の学科会議では、オンライン授業対応について、大学サポートの不十分さを補うために、学部・学科でどのような補充ができるか、各教員の授業における工夫点などを出し合い、意見交換・検討を行った。
- (6) 1月13日の学科会議では、大学提案の授業評価アンケートのやり方などにつき、意見聴取の上、検討を行った(大学提案を一部修正して受け入れた)。
- (7) FD講演会: 学科としてFD講演会への参加を推奨したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学科の教員が参加できなかった、またはしなかった。
- (8) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表: 上記2参照(全学科共通)。

◇政治学科の2019年度のFD会議・活動等

- (1) オンライン授業講習会: 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、春学期の授業はすべてオンライン・リモート授業となったので、オンラインによるFD検討会を4月13日(月)・14日(火)に開催し、「オンライン授業の進め方」のテーマのもと、学部スタッフのほぼ全員に、講習会を開催した。
- (2) 初年次教育検討会: 新型コロナウイルス感染症拡大により中止。その代わりに、学科のスタッフに、入学前教育講評会資料を配付して、昨年度の入学前教育実施について、各自振り返ってもらった。
- (3) 5月13日の学科会議では、コロナ禍でのフィールドワークの履修者募集方法などについて検討した。
- (4) 7月1日の学科会議では、秋学期の授業方法(対面かオンラインかなど)について、意見交換・検討を行った。
- (5) 8月3日～24日まで、春学期オンライン授業(全員)および1年生科目(担当者のみ)の実施状況や反省・課題点について書面によるアンケートを実施し、主任が結果をとりまとめ、学科スタッフ共有して、秋学期の授業の参考とした。
- (6) 9月15日の学科会議では、次年度の授業方法および時間割編成について検討した。
- (7) FD講演会: 学科としてFD講演会への参加を推奨したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学科

の教員が参加できなかった、またはしなかった。

(8)成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表:上記2参照(全学科共通)。

◇グローバル法学科の2019年度のFD会議・活動等

- (1)オンライン授業講習会:今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、春学期の授業はすべてオンライン・リモート授業となったので、オンラインによるFD 検討会を4月13日(月)・14日(火)に開催し、「オンライン授業の進め方」のテーマのもと、学部スタッフのほぼ全員に、講習会を開催した。
- (2)初年次教育検討会:新型コロナウイルス感染症拡大により中止。その代わりに、学科のスタッフに、入学前教育講評会資料を配付して、昨年度の入学前教育実施について、各自振り返ってもらった。
- (3)4月8日の学科会議では、オンライン授業の方法と、特に、フィールドワーク・留学準備講座につきその方法等を検討した。
- (4)5月13・27日の学科会議では、カリキュラム留学からの帰国学生へのアンケートの結果をもとに、カリキュラム留学の問題点・改善点の検証等を行うとともに、2021年度のカリキュラム留学の方法等を検討した。
- (5)6月10・24日および7月8日の学科会議では、出席不良者への対応等を議論・検討した。
- (6)7月22日、9月30日の学科会議では、主に秋学期の授業方法について検討した。
- (7)10月28日の学科会議では、2021年度カリキュラム留学が中止されることを想定して、これに代替する措置等を検討した。
- (8)1月13日の学科会議では、2021年度の「海外法学学習」の内容・担当者および実施方法について、高田教授の提案をもとに、意見交換を行った。
- (9)グローバル法学科FD講演会(オンライン双方向同時配信)として、テンプル大学日本校のTina H. Saunders教授による、「米国における法学教育の内容と方法」について講演会を開催した。
- (10)FD講演会:学科としてFD講演会への参加を推奨したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学科の教員が参加できなかった、またはしなかった。
- (11)成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表:上記2参照(全学科共通)。

4. 総括

2020年度法学部のFD活動報告は、上記の通りであるが、特筆すべきは、新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン会議というやり方が中心であったが、学部全体および各学科とも、こうした環境科での教育をどう実施していくかを真剣に論じ、教育の方法等に新境地を拓くための有意義な議論や意見交換を行うことができた。また、オンラインでの対応ならではの施策の検討(e-learningシステムの全学部スタッフの積極的活用など)を行えた。その成果として、全てのスタッフがe-learningシステム(manaba)を使用して、新たな教育メソッドを各自がその能力に応じて、使いこなせる域にまで達したことをあげることができる。ただし、学生の満足度(アンケート調査等によれば)は、教員各自のmanabaの活用程度に応じて、格差があったことも否めない。今後の課題としては、こうしたシステムの使用と活用の学部全スタッフの平準化と、このシステムと対面授業との併用におけるより効率的な授業運営と教育方法の確立が急務であることが学部の全スタッフで共有された。

最後に、反省点として、コロナ禍にあって時間的な余裕がなかったということもあるが、学部の全スタッフが、2回のFD講演会に参加しなかったことは、学部長の自戒の念も込めて、問題であったことを認めるとともに、次年度は一人でも多くのスタッフの参加を促すよう善処することに

国際学部

国際学部

学部 FD 活動総括

国際学科、国際キャリア学科ともに、今年度は、FD 教員評価検討委員会主催の FD 講演会に加え、コロナ禍への対応として急遽導入されたオンライン(遠隔)授業への取り組みにかかる FD を、両学科合同で数次にわたり開催したほか、国際交流・カリキュラム/人事、サバティカル、英語教育免許等にかかる学部方針について討議する FD も開催した。

FD 教員評価検討委員会主催の FD 講演会は、いずれも重要なテーマを扱うものであったが、今年度は目の前の課題処理を優先せざるを得ない状況にあったこともあり、参加状況は芳しくなかった。

その一方で、オンライン授業にかかる FD は、ICT に精通した退職教員の力も得ながら累次開催したが、Teams の使い方そのものを知ることから始め、次に授業方法について討議し、さらに、授業経験を共有する、というように、実際のニーズと進捗段階に応じた内容を設定して行った。経験の共有にあたっては、Good Practice というべき先端的実践例を何人かの教員に紹介してもらった。いずれの回も活発な質疑応答が続き、実のある FD の場になったと考えている。

また、学部方針にかかる FD では、テーマ別に指定された報告者からの発議を受けて、学部や授業のあり方について忌憚のない深みある議論ができた。

このほか、定期的開催される各学科会も FD 活動に相当する内容になっていると考えられる。特に国際キャリア学科は創設後ようやく 10 年目を迎える小規模な学科であるため、毎月の学科会が事実上の FD 活動の場に転化し、カリキュラムの在り方や授業実践等に関して、活発な意見交換が行われ、より良い学科の在り方が常に模索されている。

全学的に開催される FD 活動への教員のより積極的な参加という課題はあるものの、次年度以降も、学部・学科の必要性に根ざした、地に足の着いた FD 活動をこれまで通り積み上げていきたい。

心理学部

心理学部 FD 研修会

心理学部は学部全体で行う FD 研究会を年に 1 回、大学院・研究所合同の FD 研修会を年に 1 回、そして各学科の FD 研修会を複数回実施している。

2020 年度心理学部全体の FD 研修会は以下のように行われた。新年度の開始に合わせて実施したものである。

1. テーマ: zoom について
2. 企画趣旨: オンライン会議や授業対応のためのツールとしての zoom の活用に関する情報共有を行うこと、初めて zoom を活用する教員への講習。
3. 日時: 2020 年 4 月 1 日 10:00~12:00

4. 参加者:心理学部教員 30 名

5. 講師:心理学部 渋谷恵教授・根本淳子准教授

各学科で実施した FD 活動は、以下のとおりである。

心理学科

活動日	活動内容	詳細
4/1	〃学部 FD	オンライン会議や授業対応のためのツールとして Zoom の活用する情報共有を行う。
4/17	学科 FD	大学が推奨する Teams について、教員間で勉強会を行った。Teams を併用しながら、Teams の利用方法、メリット、デメリットについて各教員が知っている情報を共有するとともに、森本准教授が「予定や web 会議の予定の組み方・実施方法などの基本的な事柄」について説明した。
7/1	学科 FD	突如開始し、2 ヶ月が経過したオンライン授業について、教員間でオンライン授業に関する集合知を蓄積していく目的で行われた。実地各教員が自身のオンライン授業の進め方(形式・概要など)、メリット(対面と比較し、良い点等)、デメリット(対面と比較し、苦勞なさや困っていらっしゃる点等)、今後の教育に向けて教員間で共有する点について事前アンケートに答え、その情報をまとめて事例として取り上げるとともに、問題点について議論を行った。
9/20	第 1 回 FD 講演会	FD・教員評価検討委員会主催の第 1 回 FD 講演会(オンデマンド)「なぜ今、「教学マネジメント」に取り組むのか ～ 講師:学びと成長しくみデザイン研究所 桑木氏
10/28	心理学研究科主催 FD 研修会	辻宏子教授研究サバティカル報告
2/19	学科 FD(講演会)	ハイブリッド授業の運営方法の Tips と課題について講師:野村
2/19	学科 FD	心理学科の中長期目標の検討について議論した。

教育発達学科

活動日	活動内容	詳細
4/1	学部勉強会	オンライン会議や授業対応のためのツールとして Zoom の活用する勉強会を開き、情報共有した。
5/27	学科勉強会	1.2 年生の必修授業における学生のインターネット環境や w 状況等のアンケートの結果報告および web ツールの活用に関する情報交換をして、オンライン環境での効果的な授業の工夫について学修した。
7/29	学科勉強会	校長や教育委員会が求める若手教員に関する話を高橋特命から伺い、これからの教員養成に必要な点についての示唆を

9/20	第1回FD講演会	FD・教員評価検討委員会主催の第1回FD講演会(オンデマンド実施) なぜ今、「教学マネジメント」に取り組むのか ～ 講師:学びと成長しくみデザイン研究所 桑木氏
9/30	学科勉強j会	17PE および 18PE 生を対象に教育発達学方法論(体験活動)A・B についてアンケート調査を実施した結果を基に、同授業の学科カリ キュラムの位置づけや実施形態について検討した。
10/28	学部勉強会	教員間での研究の情報共有と相互の研究の質の向上を目的に、 2019年度にサバティカルをとられた教員(辻教授)からの研究報告と 質疑応答を行った。
以上		

教養教育センター		
<p>教養教育センターのFD活動は、全教員対象の本学主催FD講演会(計3回)、関西大学FDフォーラムへの参加、教養教育センター主催FD講演会、さらに、各科目・部門単位における活動である。各活動について、開催順に下記のとおり報告する。</p>		
活動日	活動内容	詳細
4/3	英語コミュニケーション2AB担当者研修会	本研修会は、英語コミュニケーション2ABを担当している非常勤講師と専任教員を対象として実施された。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け遠隔授業が実施されることになり、各授業担当者と授業内容に関する意見交換会をオンラインにて実施した。
4/6	スペイン語 オンライン授業のための研修会	本研修会は、スペイン語を担当している非常勤講師と専任教員を対象として実施された。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け遠隔授業が実施されることになり、各授業担当者に対してオンライン授業の研修と授業内容に関する意見交換会をオンラインにて実施した。
6/13	第23回関西大学FDフォーラム	「遠隔授業のデザインを考える-人の縁を描く授業-」 (http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/news/613_23fd--.html) 主催: 関西大学教育開発支援センター「KU-DWOT(Kansai Univ. Designing Workable Online Teaching)チームで展開する外国人教員対象のオンライン授業化の取組報告」山本 敏幸(関西大学 教育推進部 教授) 「コロナ禍においてオンライン授業を受ける学生に向けた学習支援」岩崎 千晶(関西大学 教育推進部 准教授) 「LMS・Zoomともに経験したことのない者が遠隔授業でグループワークを展開してみた」三浦 真琴(関西大学 教育推進部 教授)他
8/20	健康・スポーツ科学部門FD研修会	「健康・スポーツ科学系科目における遠隔授業の展開」本研修会は健康・スポーツ科学系科目を担当している非常勤講師と専任教員を対象として実施された。遠隔授業(オンデマンド授業)において実施可能な授業方法の解説、ならびに実技を含む健康・スポーツ科学系科目における対

		面授業と同等の授業効果を得るためのコンテンツ作成方法、および授業運営方法について研修を行った。
9/15	英語コミュニケーション1AB担当者研修会	本研修会は、英語コミュニケーション1ABを担当している非常勤講師と専任教員を対象として実施された。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け遠隔授業が実施されることになり、各授業担当者と授業内容に関する意見交換会をオンラインにて実施した。
9/20	第1回FD講演会	FD・教員評価検討委員会主催の第1回FD講演会(オンデマンド実施)なぜ今、「教学マネジメント」に取り組むのか～「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」と「教学マネジメント指針」を読み解く～講師:桑木康宏氏(株式会社学びと成長しくみデザイン研究所 代表取締役)対象:本学教職員
11/11	教養教育センター主催FD講演会	「明治学院大学の共通科目カリキュラムとその運営組織の変遷について」講師:嶋田彩司氏(教養教育センター教授) 教養教育センターにおいては新任者が増加しているため、「明治学院共通科目」担当者の所属に関する歴史的経緯やこれまでのカリキュラムの変遷等について教授会メンバーが把握すること、また、「明治学院共通科目」や教養教育センターの現状を理解することを目的として実施した。 対象:教養教育センター全教員
11/30	第2回FD講演会	FD・教員評価検討委員会主催の第2回FD講演会(オンデマンド実施)カリキュラムマネジメント【設計編】設計意図に沿ってカリキュラムを運営する方法 講師:桑木康宏氏(株式会社学びと成長しくみデザイン研究所 代表取締役) 対象:本学教職員
1/27	教養教育センター主催外国語教育部門第1回FD研修(講演会)	「ニューノーマル時代の外国語教育——パンデミック・ペダゴジーから学ぶこと」(オンデマンド実施+Zoomによる質疑応答) 講師:カリフォルニア大学サンディエゴ校教授 當作靖彦氏 コロナ禍で実施されているオンライン授業において、どのように外国語教育を展開し、どのように質を高め、実践に結びつけていくかを実態に即して考えることを目的として実施した。 講演会(講演90分+質疑応答約30分) 対象:本学外国語授業担当者
1/30	教養教育センター主催外国語教育部門第2回FD研修(ワークショップ1)	「オンラインの外国語教育を豊かなものにするためのツールとリソース」(Zoom開催) 講師:カリフォルニア大学サンディエゴ校教授 當作靖彦氏 コロナ禍で実施されているオンライン授業において、どのように外国語教育を展開し、どのように質を高め、実践に結びつけていくかを実態に即して考えることを目的として実施した。 1月27日の講演に関するワークショップ(120分、日本語)を実施。対象:本学外国語授業担当者

2/20	教養教育センター主催 外国語教育部門第3回FD研修(ワークショップ 2)	「インターアクションのためのツール」(Zoom 開催) 講師:カリフォルニア大学サンディエゴ校教授 當作靖彦氏 オンライン授業、特に Zoom などにおけるブレイクアウトセッション機能を利用したグループワークを取り入れる際に役立つツール、Padlet 等の使用方法を実践の中で身につけることを目的として実施した。対象:前回FD研修(ワークショップ 1)参加者のうち希望者、ならびに外国語授業担当者以外の教養教育センター教員(希望者)
------	---	--

以上